

令和七年度採用

群馬県公立高等学校教員選考試験問題

国語

受験番号
氏名

注意事項

- 一 「開始」の指示があるまでは、問題用紙を開かないでください。
- 二 問題は、1ページから4ページまであります。「開始」の指示後、すぐに確認してください。
- 三 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 四 「終了」の指示があったら、直ちに筆記具を置き、問題用紙と番号順に重ねた解答用紙を机の上に置いてください。
- 五 退席の指示があるまで、その場でお待ちください。
- 六 この問題用紙は、持ち帰ってください。

一 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

問一 傍線部①～⑧について、カタカナを漢字に改めよ。

問二 傍線部Ⅰについて、筆者がキャッチボールのたとえを挙げたことにはどのような意図があったと考えられるか、書け。

問三 傍線部Ⅱについて、国語のオンライン授業においては他にどのような方法が考えられるか、具体的に書け。

問四 傍線部Ⅲについて、交話的な営みが構造的に不可能になると言えるのはなぜか、書け。

問五 傍線部Ⅳについて、相手のメッセージをどういう「額縁」に入れて解釈するかということが死活的に重要なのはなぜか、書け。

問六 傍線部Ⅴを分かりやすく言い換えながら、「ほんとうの意味でのコミュニケーション」を成り立たせるのに必要なことを板書したい。本文全体における筆者の主張を踏まえて、その板書例を書け。

問七 本文の内容を、「高等学校学習指導要領」(平成30年3月告示)の国語に示された科目「現代の国語」の2 内容(「思考力、判断力、表現力等」A 話すこと・聞くことの指導に「つなげたい。その際、具体的にどの指導事項につなげることができるか、また、その指導を行う際、どのような言語活動が考えられるか、「現代の国語」2 内容を踏まえて、書け。

二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

『十訓抄』による

(注) 九条殿：藤原兼美。平安末期、鎌倉初期の公卿。

讃岐三位：藤原季行。平安後期の廷臣。

清輔朝臣：藤原清輔。平安後期の歌人、歌学者。顕輔の子。

顕昭法師：平安後期の歌僧。藤原顕輔の養子。

土左大将：藤原師長。平安後期の公卿。保元の乱の後、父頼長に連坐して土佐に配流。

陪従：管絃に従事する地下の樂人。

惟成：源惟盛といわれる。平安後期の官人。

青海波：雅樂の代表曲。

琴柱：琴の胴の上に立てて、絃の音の高低を決めるもの。

問一 波線部 a、c を、口語訳せよ。

問二 傍線部①について、品詞分解し、各語について文法事項を説明せよ。

問三 傍線部②の指す内容を、本文中から四字以内で抜き出し記せ。

問四 傍線部③とあるが、それはなぜか。本文全体の内容も踏まえてその理由を説明せよ。

問五 X の和歌について、

(1) 和歌の中の掛詞について説明せよ。

(2) (1) を踏まえて口語訳せよ。

問六 本作品と同じジャンルに分類されるものを次から全て選び、記号で答えよ。

ア 「とはすがたり」 イ 「発心集」 ウ 「古今著聞集」 エ 「宇津保物語」

オ 「宇治拾遺物語」 カ 「無名抄」 キ 「土佐日記」

問七 本文を用いて、「高等学校学習指導要領」(平成30年3月告示)の国語に示された科目「古典探

究」の2 内容(思考力、判断力、表現力等)A 読むこと(1)オ「古典の作品や文章について、

内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。」について指導する際に、

生徒の活動としてどのようなものが考えられるか、書け。

三次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部訓点を省略した所がある)

『説苑』による

(注) 晏子：春秋時代の齊の国の政治家。

荊：春秋時代の楚の国の旧称。

坐：罪を問われる。

反顧：振り返ってみる。

橘：みかん。柑橘類。

枳：ミカン科の落葉低木。枝には刺があり、その実は食用に適さない。

中：損なわれる、傷つけられる。

問一 波線部 a、c の語の読み方を、送り仮名も含めて平仮名(現代仮名遣い)で答えよ。

問二 傍線部 ①、③ について、書き下し文にし、かつ、口語訳せよ。

問三 傍線部 ② を口語訳せよ。

問四 傍線部 ④ を授業で扱う際、句法を説明する板書例を示せ。

問五 二重傍線部 A について、「反自中也」とあるが、これはどういうことか。晏子の論理に触れながら説明せよ。

国語解答用紙

二枚中の一

受験番号

氏名

(7年)

—

問一

①

②

③

④

⑤

問二

⑥

⑦

⑧

問三

問四

問五

問六

問七

言語活動	指導事項								
------	------	--	--	--	--	--	--	--	--

国語解答用紙
二枚中の二
受験番号
氏名

(7年)

二

問一

c	a
	b

問二

--

問三

--

問四

--

問五

(2)	(1)

問六

--

問七

--

三

問一

a	
	b
c	

問二

③	①	
		書き下し文
		口語訳

問三

--

問四

--

問五

--

以下はあくまでも解答の一例です。

国語解答用紙	
二枚中の一	
受験番号	
氏名	

(7年)

一  
【100点】

問一	① 有意	② 交	③ 小気味	④ 遂行	⑤ 監督
----	------	-----	-------	------	------

⑥ 詰	⑦ 采配	⑧ 一因
-----	------	------

【2点×8＝16点】

問二

（例）相互に相手の存在を好意的に受容する、ヤコブソンが唱える交話的機能の有効性について、身近なたとえを加えることで、読者に首尾よく理解してもらいたいという意図。

【14点】

問三

（例）文章作成ソフトを活用して文章を書かせ、コメント機能等を用いてコミュニケーションを図る方法。

【8点】

問四

（例）個々の生徒を識別し承認するには、人数に限界があり、何千人がダウンロードして聴講するような授業での実現は非現実的だから。

【10点】

問五

（例）そのときどきの状況を踏まえて、相手が言おうとしていることに見当が付けられるかどうかは、円滑に社会生活が営めるか否かに関わるから。

【10点】

問六

（例）表面的なメッセージのやりとり  
 相互に相手の存在を受容する、  
 言語の交話的機能のないメッセージのやりとり  
 一意的なメッセージのやりとり  
 そのときどきで相手が言おうとしていることに見当を付けることをしないメッセージのやりとり

ほんとうの意味でのコミュニケーションは成り立たない

⇒ ……ほんとうの意味でのコミュニケーションに必要なこと

【10点】

問七

指導事項  
 （例）自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。等

言語活動  
 （例）スピーチをしながらペアワークが考えられる。その際、録画したスピーチと対面でのスピーチの二つを用意させ、本文を踏まえた伝わり方や受け取り方等の違いを認識させたい。

【8点＋10点】



国語解答用紙

二枚中の一

受験番号

氏名

(7年)

二【50点】

問一

a	(例)お世話申し上げていた	b	(例)知らない人はいるだろうか、いやいな。
c	(例)まったく聞き入れない。		

【4点×3＝12点】

問二

こと に こそ あん なれ  
 名詞 断定の助動詞・連用形 (係)助詞 ラ行変格活用動詞・連体形撥音便 伝聞推定の助動詞・已然形

【5点】

問三

蒼海波

【4点】

問四

(例)清輔朝臣の言った「蒼海波」という秘曲のことを、「青海波」の間違いだと思つて笑つていたが、「蒼海波」という秘曲が実際にあったことを知り自分たちが間違つていたということに気づいたから。

【6点】

問五

(1) (例)「こと」に「事」と「琴」が掛かっている。

(2) (例)おまえに教えておくこの琴の秘曲「蒼海波」の事を、私の形見だと思つてしのでおくれ(し)のんでほしい。私は、(蒼海波のような)あおい海の波に乗って流れ去って行く身であるのだから。

【(1)4点、(2)6点】

問六

イ・ウ・オ

【3点】

問七

(例)本文から読み取れるテーマ、教訓を、生徒それぞれに考えさせ、自己のこれまでの経験や日常生活に照らして考えたり、今後の生活の場面をイメージしたりしながら、注意していききたいこととして、具体的に言語化し、発表し合つて互いの考えを知る活動。

【6点】

三【50点】

問一

a ここにおいで

b もとより

c ゆえん

【2点×3＝6点】

問二

	書き下し文		口語訳
①	晏子 將に荊に使ひせんすとす。		晏子が使者として荊(楚)に行こうとしていた。
③	何為る者ぞや。(と。)		どういった者か(何者か)。

【書き下し③点×2、口語訳④点×2＝14点】

問三

どうか私に一人の男を縄で縛つて、王のそばを通り過ぎて行くようにさせてください。

【6点】

問四

(例) 得 <sup>え</sup> 無 <sup>な</sup> き乎 <sup>や</sup> 。(反語)	使 <sup>つか</sup> 之 <sup>の</sup> 然 <sup>ら</sup> 。(使役)
読み……無きを得んや。	読み……之をして然らしむる(を)して……せしむ
訳……無いことがあり得ましようか。	訳……之にこのようにさせた(を)に……させる
……というものはなかるうか。	

【12点】

問五

(例) 荊王は当初、斉の国の政治家である晏子に恥をかかせようと、斉の国の人間を罪人として晏子に示したが、もともとその罪人は、斉の国では罪をはたらくような人間ではなく、荊の土地がらのせいでこのようになったということを、江甯にあった橋の木を江北に植えたところから気づいてしまったという巧みな例で、反対に晏子にやりこめられてしまった。

【12点】